



平成23年10月15日

- 2〜3面 松川町音楽祭
- 4面 暮らしの知識を学ぶ講座(ゴミ分別)
- 5面 松川町史探訪の会
- 6面 みんなで仲良く青年の家だより
- 7面 スポーツ・情報
- 8面 ひとすぼっと・こどもの詩・短歌



まつかわ百景 ⑤

北部果実選果場「もなりん」

竣工となったJAみなみ信州の北部果実選果場(旧西選果場)。ハイテクを駆使した最先端の作業が行える。

今年7月末より、今までの松川西選果場がみなみ信州農協北部果実選果場として、桃・梨・りんごの選果荷作り出荷作業が連日行われています。喬木、豊丘、高森、松川それぞれの選果場で行われていた作業を一ヶ所にまとめたのです。機械の老朽化、出労作業員の問題等により統合されました。

さて、新しく生まれ変わった感のある選果場は、着色度合はもちろん糖度、熟度の様子を光センサーにより判定し、美味いくだものを出荷し、消費者のみなさんに食べていただくべく新しい選果の機械を導入、箱詰、出荷の場所もだいぶ様子が変わりました。

主張

北部果実選果場稼働

5つの選果場が一つになったという事で果樹農家からの選果場への出荷量も多く、昼間約200名位の人が働いています。昼間は九割以上生産者以外の方に応援をいただき作業が行われています。収穫出荷

選果場へ出荷されるすべての果実が下伊那

郡北部地区町村のものとして全国に送られていきます。「くだもの里まつかわ」の果実と言うわけにはいきませんが、「くだもの里」として益々発展したいものです。

最盛期には、夕方から夜間の選果場作業加わり、生産者が昼間の収穫作業等の後、喬木、豊丘、高森の方、もちろん松川の方も晩酌を後にまわして選果場作業が行われました。

そのような中、それぞれの果実の品質差による価格の差が大きくなり、生産者の熱意技術による収入の差も大きくなるのでは？と思われまます。多額の金をかけて増改築と機械の導入で生産者の負担金も多くなつて来る事です。大きな選果場になり、良い点、心配な点など多くでてくると思われます。とにかく生産者が良かったと言える運営をお願いしたいものであります。

松下伸嗣(城北)

町内音楽愛好者の 世代間のつながりをつくる

第22回 松川町音楽祭

9月11日（日）町民体育館トレーニングルーム

「1つの歌を会場みんなで歌うことで心を1つにしたい。」という思いから、オープニングにみんなで「ふるさと」を歌いスタートした今年の音楽祭。この曲は東日本大震災の応援歌としても歌われていて、人とのつながりを一人ひとりが感じながらの音楽祭となりました。

松川コーラスクラブ

「さよならをするために」「旅愁」「冬が来る前に」となつかしい曲調の3曲を合唱され、思わず歌ってしまっただという感想もありました。透き通った声と、きれいなハーモニーが印象に残りました。



なつかしい曲に会場の皆さんも思わず口ずさんだ（松川コーラスクラブ）

松川東小学校（全校）

1年生から6年生まで21名。学年の差を感じさせない、素晴らしい合唱でした。「地球の子ども」と「明日に向かって」と東小学校らしい、全校で合唱するという素敵なきれいな歌声でした。



1年生から6年生まで、全校で歌う（東小学校）

女声コーラス 桐

大人の女声で歌ってくれた「ありがとう」の1曲。ヴァイオリン演奏が加わった、「花」「ベチカ」。ヴァイオリン演奏とのコラボが素晴らしく、クラブの歴史が感じられました。また歌声も素敵でしたが、お揃いの衣装があざやかで会場を魅了しました。



歌にヴァイオリンの調べが加わり観客を魅了（女声コーラス 桐）

松川中央小学校合唱団

4年生から6年生の歌の好きな仲間が集まった合唱団。「たんぼぼ」「地球星歌」と長い歌でしたが、しっかりと覚えて丁寧に歌っていてとても上手でした。声がそろった素晴らしい合唱や、指揮の先生の手があがったときの全員の動きが揃っていて、一生懸命に歌う姿が印象に残りました。



指揮に集中し、全員の動きがそろっていた（中央小合唱団）

松川北小学校

金管バンド

「鉄腕アトム」「水戸黄門」と誰もが聞いた事がある曲をリズム良く演奏してくれました。中でも鉄腕アトムは運動会の行進曲でもあり、少人数



親しみのある曲を、力強く堂々と演奏（北小金管バンド）

松川中央小学校

金管バンド

50名余りのメンバーで、「LOVE SO SWEET」「シング・シング・シング」という小学生には難しいメロディーに挑戦し、毎日の練習の成果が出ていました。中でもトランペットの音がしっかりと出て旋律がはつきりしていて、また動きもあり、ショーを見ている感じの演奏でした。「シング・シング・シング」では、パート毎の音がかかりっていて、まるでスイングガールズみたいでした。



ソロパートで魅かれる熱演
(松川高校吹奏楽部①)

去年より部員が増え、15名で活動している吹奏楽部。少人数でしたが、音量があり「さすが高校生」という演奏を聴かせてもらいました。「君に届け」「ワンピースメドレー」を楽しみながら演奏しており、ソロパートやドラムがかっこ良く、迫力のある演奏でした。

松川高校 吹奏楽部



動きのある演奏で息もピッタリ！
(中央小金管バンド)



和太鼓を使っでの演出はさすが!!
松吹 (松川吹奏楽団)

「マル・マル・モリ・モリ！」と「坂本冬美メドレー」とおもしろい選曲でしたが、すごい迫力で、「さすが」と感じる素晴らしい演奏でした。特に和太鼓との共演は、聞いていてひきつけられるものを感じました。

松川吹奏楽団



部員の数も増え演奏の美しさに迫力が加わった
(松川高校吹奏楽部②)

今年松川高校吹奏楽部が加わり、迫力のある素晴らしい演奏でした。全員が集まった練習が少

松川吹奏楽団 & 松川高校吹奏楽部 & 松川中学校吹奏楽部



大人数で迫力のある演奏

44名で活動している部で、1年生が多い中、まとまった演奏でした。「Everyday Youthチャー！」「GOGOサマー！」とアップテンポの曲でしたが、音がしっかり出て素晴らしい演奏でした。力強い演奏で、思わず口ずさんでしまいました。

松川中学校吹奏楽部



合同演奏には、「子どもから大人まで音楽を楽しむことのできる町にしたい。そのためにこの演奏で世代間のつながりをつくってきたい」という、この音楽祭を中心になって企画・運営した公民館社会部の願いがこめられている。

ない中、「ありがとう」「Happy pines」とヒット曲を世代をこえての熱演♪胸にひびくものがありました。松川町の吹奏楽愛好者が集まり、会場のみなさんの心に残った演奏でした。それぞれの発表の場でも今日を忘れないように頑張ってください。

最後に毎年恒例で、出演者と観客全員で吹奏楽の演奏によって「ピリッブ」を合唱しました。会場全体が一つの気持ちになり、感動の余韻を残しながら、ファイナレを迎えました。

エンディング 「ピリッブ」

松川町のゴミの現状を学ぶ

みなさんは、ごみの分別で迷った事があると思います。実際に分別表を見ても、わかりにくいゴミが多いです。今回の講座は、正しいゴミの分別の仕方、ごみの出し方を学びました。

暮らしの知識を学ぶ講座③ 環境・ゴミの分別 9月9日(金)

燃やすゴミは、桐林クリーンセンターへ運ばれて毎回計量されています。1番多かった平成17年度にくらべ、平成22年度は20%減っています。しかし、まだ燃やすゴミの中

にプラスチックや紙類が混入しています。



資源ゴミは中間処理業者を通じて、県外の処分業者へ行きます。現在、プラ製容器は94%がリサイクルされています。以前は汚れた容器が多く、業者が受け入れを拒むほどでしたが、福島さんの2年間で70回もの説明会や住民の努力により、今では良いゴミを出す町になっています。

また町では、フードリサイクルで生ごみを肥料にして販売したり、家庭用生ゴミ処理機の購入補助も行っていきます。

分別方法のわからないゴミを持ち寄って説明を聞く

受講者が持ち寄ったゴミを実際に分別しました。分別表をよく見ると書いてある物もありましたが、カッターのようにはプラスチックと金属が混ざった製品は資源ごとに分解して出した方が良いのかという問題になりました。福島さ

町史を探訪!?

松川町史探訪の会

みなさん、町史はお読みになりましたか？

平成18年に町制50周年を迎えたことを記念してつくられた松川町史。その町史を通して町の歴史を学ぼうと集まっているのが「松川町史探訪の

んからの答えは、分解できれば良いが無理してやらなくて良いとの事です。例えば、刃物のついた物は分解すると危ないので、そのまま金物に出せば、処理業者で分別してくれるそうです。

ゴミ分別表だけでは迷ってしまう物も多いですが、そのゴミがどう処理されるかを知ると、迷うことも減るかと思



▶現物を見て分別してみました

会」です。

本を読むのになぜ「探訪」なのか。松川町史探訪の会は、本を読み合わせるだけの会ではありません。町史を読んで学んだあと、実際にその場所を訪れて見てまわるのです。だからこそ「探訪」なのです。

松川町史は全3巻あります。第1巻は「合併50年のあゆみ」です。松川町が誕生するまでの旧村の合併や、松川町となつてからの50年間に発展してきた、行財政、防災、防犯、産業、生活環境についてなどが記されています。

第2巻は「松川町の自然」。「松川町の教育」の2冊組です。「自然」には、松川町の地質、植物、動物、気象について記さ



▶資料館の酒井さんに聞きたいところ、わからないところをその場で聞けるのがこの講座の魅力の一つです



▶興味のあるところから読みすすめていきます

第3巻は「松川町の歴史」です。第1巻は50年間の歴史ですが、第3巻は原始からの地域の歴史が書かれています。また、神社や寺院についても紹介されています。

このように内容盛りだくさんの町史を、より楽しく読を進めていくのが松川町史探訪の会です。1ページ目から順に読むのではなく、全員が見たいところから見たい自由な発想で気軽に活動しています。まずは、誰もが知る台城の歴史から「探訪」をします。

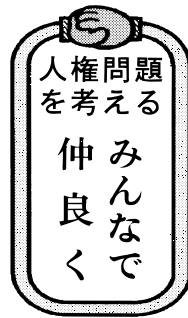
松川中学校3学年では、松中サマートライやるの集大成として、福祉体験学習を行いました。1学年時は保育体験を、2学年時には職場体験学習をさせていただきました。それらの体験の中で生徒たちは、『人と触れ合う』『共に生きる』『支え合う』等様々なことを学びました。生徒の保育体験の感想です。

1年生

「僕は保育体験を通してうれしかったことがあります。それは園児の子たちが自分との遊びを楽しんでいてくれたことです。最初は自分との遊びを楽しんでくれていたのか分りませんでした。ふと園児の子たちの顔を見るとすごく楽しそうな顔をしていて、自分を呼んでくれました。それを見るとすごく自分も楽しい気持ちになり、いつの間にか園児と楽しんでいました。また、園児同士がけんかしてしまった時お互いの話を聞いて仲直りさせることが大変でした。保育士の先生方はお互いの話を聞いて、話を整理し仲直りさせてくれました。そこで学んだのは、ケンカはお互いの意見の違いから起き、それは子どもでも大人でも共通しています。ケンカをおさめるためには互いの違う意見を理

解することだと、学びました。この体験では、園児、それを見守る保育士さん、様々な人たちが互いに支え合い、これが『共に生きる』というこの大切さだと思いました。」

このように生徒たちは、保育体験学習から、相手を尊重し、同じ目線に立つて関わることの大切さを学びました。また、生徒たち自身も幼い頃があり、自分たちも支えられ、見守られて育ってきたことに気付き、そしてこれからは周囲の人たちを



尊重し、支えていきたいと考えるようになりました。

保育体験では自分より幼い子どもたち、職場体験では、職場の方々やお客さん、福祉体験では福祉施設の方々との触れ合い、相手を尊重することの大切さ、関わり合うことの楽しさ、共に生きる社会の素晴らしさを実感しました。次は福祉体験学習を通して学んだ生徒の感想です。

2年生

「自分は事前学習で車いす体

験を行った時にとっても大変なんだということを知りました。そこで当日にそんな方々がどのようにすれば快適に過ごしているか考えながらやりました。自分が一番考えたのはコミュニケーションについてです。1人の利用者さんから多くのことを学びました。その方は耳の遠い方でした。そこで自分は筆談から始めました。聞きたいこと等を字で表わすことができました。しかし、介護員の方を見ると耳元で大きな声で話していました。自分は恥ずかしいなと思いました。次の日にやってみました。そしてわざわざ書かなくてもコミュニケーションがとれました。こんなにコミュニケーションというものを学べてとてもよかったです。これから社会に出てからもコミュニケーションは大切だと思うのでこれからもしっかりと伸ばしていきたいです。」

相手のことを思い、相手を尊重し、相手と関わり合うとすることで、考えて行動することも「みんなで仲良く」することのひとつであると思います。年齢を問わず、誰でも仲良くできる人に育ってほしいと思います。

生涯教育のメッカ

松川青年の家だより
(その一)

長野県松川青年の家は町営の温泉施設清流苑の近くの森の中にあります。昭和53年4月に青少年の研修施設として開所して以来、平成22年3月まで長野県が管理運営をしてきました。ところが、さまざまな事情から平成22年4月より松川町が指定管理者として、この施設の管理運営に運営を任ざられてから現在に至っております。

ここには体育館・大中小の研修室・宿泊室・食堂などが館内に、外には野外炊飯場とキャンプ場・グラウンド・マレットゴルフ場などを完備して、幼児から熟年者まで幅広い年齢層の方々にご利用いただいております。また、生涯教育のメッカとして、町内をはじめ郡内・県内にお住まいの方はもちろん、中京・関東方面を中心とした全国だけでなく海外からも研修に来られることもあります。

今回はここでを行っている研修についてその概略を紹介しましょう。研修の方法は、利用者(団体)が当所の各施設や周辺地域などを使って自ら研修を行う自主研修と、当所が計画したイベントに参加したり、当所があらかじめ用意したプログラムを体験したりして研修を深めていただく松川プログラムの二つに大別されます。

自主研修

当所の施設を使い、自主的な研修が行われています。



中でも多いのがスポーツ研修と学習合宿・企業研修です。スポーツでは小中学生のバレーボールやサッカーボールなどの練習合宿や熟年者によるマレットゴルフの練習がよく行われております。また、夏には野外でのキャンプや野外炊飯、ウォークラリーなどの体験も頻繁に行われます。また、大学を目指す高校生が、数日間、宿泊をしながら一緒に勉強に打ち込む学習合宿や、地元企業が社員教育の一環として行う企業研修なども盛んに行われます。松川プログラム

当所では、周囲の自然環境や施設を生かした講座を計画し、参加者に体験してもらったり研修を深めたりしていただいています。これは松川プログラムと名づけ、自然観察、栽培体験、アウトドアアクッキング、木工や草木染めなどの創作体験、入門登山、幼児の自然遊びなど様々な活動を展開しております。



10/2
日

約900名のランナーが、全国各地からくだもの里に集結した!!

～第5回南信州アルプスマツかわロードレース大会の町内参加者の結果～

距離	部門	順位	記録	名前	備考
10km	40歳代男性の部	第1位	35分20秒	西永 佳人	10km男子総合 第3位
	高校生～40歳未満女性の部	第3位	44分09秒	片桐 幸那	10km女子総合 第4位
	40歳代女性の部	第1位	45分54秒	鈴木紀美江	10km女子総合 第5位
5km	中学生男性の部	第6位	20分46秒	前島 大地	
	30歳代男性の部	第5位	18分34秒	松尾 浩明	
	60歳以上男性の部	第4位	19分29秒	清水 悟	
	50歳代女性の部	第3位	23分57秒	小林よし子	
3km	小学生男子の部	第5位	10分56秒	松下 哲也	3km男子総合 第8位

僕たちリレーチームは、6月26日の県予選、長野県小学生陸上競技大会にて「51秒95の大会新記録」で、優勝して夢の全国大会の切符を得ました。大会前日までの2ヶ月間、「県記録更新と決勝の舞台に立つ」目標に向け、休み返上で暑い苦しい夏、流した汗は半端じゃなく、走った距離は誰にも負けない位、常に全力で走り、バトン練習に費やし、自分の走に自信が持てた。27日大会当日は快晴、少し暑かった。歩いて会場入りし保護者と応援団に合流した瞬間、ホツとして緊張がほぐれ体が軽くなった。出場時間に合わせて一時アツプにサブグラウンドに行き一汗流し、身体をほぐした。いよいよ予選開始4組6レーン。緊張が高まって来た、3組までの結果を聞いて「よし行けるぞ」と思った。予選タイムは「組1位の52秒12」。

全国小学生 陸上競技大会6位入賞 中央小6年近藤雅哉

8月26日・27日、神奈川県横浜市日産スタジアムで開催された全国小学生陸上競技大会。松川陸上クラブは400mリレーで6位入賞と見事な成績をおさめました。その第4走者として走った近藤雅哉さんが感想文を寄せてくださいましたので紹介します。



2列目真ん中が近藤雅哉さん

平凡な記録だったが予選通過。準決勝、お父さんが「ここが勝負、だぞ」と活を入れてくれたので、チーム皆で決勝に行くぞと気合いを入れ直した。1組5レーン緊張は余り無い。3走まで3位よしひとり抜くぞ、力が入りすぎか足が伸びない。結果「組3位51秒92」チーム記録でも喜べない。2組・3組の結果待ち。時間の流れが遅い。電光掲示板に松川陸上8番目の記録で決勝進出！と大きく輝かしく見えた。すごく嬉しかった入賞、決勝に残るといふ第一目標達成。決勝は県記録更新。2レーンのインコース常に前を追える形。スタート良く一杯の走りが出来たゴール。結果6位入賞。記録は「52秒08」残念ながら県記録更新は出来なかったが、しかし42都道府県の6番目「6位」嬉しかった。応援団皆と長野県選手団全員が喜んでくれた。応援していただいた皆様に感謝です。本当にありがとうございます。

参加者募集!!

上伊那子ども学習旅行

おもしろカッパ館
みはらしファーム
シルクミュージアム など

- 松川町少年少女体操・スポーツ総合クラブでは、参加する子ども・保護者を公募します。
- ◎日程 候補日 11月13日(日) 日帰り
予備日 20日(日)
10時 松川町中央公民館駐車場集合 17時解散
- ◎費用総額 一人約500円
費用の詳細は、お問い合わせください。
- ◎参加条件 幼児、小・中学生(小2生以下は保護者同伴で) 親子での参加も歓迎
15人乗り小型バス乗車定員まで先着順受付
- ◎申込先 松川町少年少女体操・スポーツ総合クラブ 川又
携帯(昼間) 090-4460-5728
電話 (FAX自動切り替え&留守録音) 36-5728
パソコンメール c-yilang@rainbow.plala.or.jp



陸上ひとと筋30年!

〜関 博文さん〜



関博文さん

「全力で立ち向かうことが重要。中途半端なら来なくていい!と子どもたちにも言った」と答えてくれました。

子どもたちを教える上で気をつけている点と、これだけは言い聞かせていることをお聞きしたところ、「年代、体力も子ども一人一人違うので、合わせた練習メニューを考えて、基礎を積み重ねていくことを大事にしている。小さい子には鬼ごっこや、ボールけりなどを通じて、遊びの中で走ることを覚えていってもらっている。走るということとはすべてのスポーツの基本。その中でも姿勢が重要で、姿勢が悪いと走ることも歩くこともうまくできない。」

また、30年間の陸上生活の思い出を聞いたところ、時代の波があり、テレビや漫画などの影響でいろいろなスポーツに子どもが興味を持つようになり、陸上をやる子どもが少なくなつた時期もあつて、その頃は「飴やるから練習に来ない?」といって物でつって人を集めたこともあつた」と笑いながら話してくれました。

今回のひとは陸上指導者の関博文さん。陸上に関わつて30年目の節目の年だそうです。

関さんは、現在小学2年生から中学生の子どもたちを指導されていて、なかでも中学生については部活動との連携も行いながら指導をしているそうです。

好天に恵まれた9月18日、上片桐地区公民館の歴史めぐりが開催されました。

農家の皆さんが農作業をされるなか行われたのは大沢地区文化財探訪。お話は資料館の酒井さんです。

大沢北部の双体道祖神、関宮神社の島崎三天歌碑、流水開田頌徳碑、大沢南部の供養塔など普段なげなく車で通りすぎている処をゆつくりと見ることが

すぽと

身近にある文化財を訪ねて

上片桐地区公民館 歴史めぐり

大沢北部の吉原遺跡は縄文時代のものだと言われておりそばにある吉原堤をつくつた50年ほど前には数多くの遺跡が出土しました。その中の一つ、島崎久彦氏宅に祀られている石棒は全長54cmの有頭石棒でその形状から人間や動植物の繁栄が祈られたといわれているそうです。

大沢南部の生賀社。境内にある南部会所には何回も言った事がありましたが、対面にある生賀社にはこの日訪れるまでは全く認識がありませんでした。その非礼をお詫びするべく拝礼したのは言うまでもありません。

この歴史めぐりをする事で改めて自分の住んでいる地域を見直す事ができたのは、大きな糧となつたのではないのでしょうか。

こころの詩

がんばつたたまいい
中央小1年
あかはね あかね
たまいいをしたよ
いれるのがむずかし
かったけど
たまをりようてにもつて
なげたよ
かごをめぐけて
たかくなげたよ
なかなかはいらなかつたけど
はいつたときは
とてもうれしかつたよ

うんどうかい

中央小1年 さか田 たくや

一番たのしかつたしゅもくはたまいいでした。
なぜかというとなんでいるたまをみているとそらにういているようにでたのしかつたからです。
それに、
なかなかはいらないのがすごくたのしかつたからです
かけっこ
中央小1年 ふるかわ たいき
ぼくはかけっこで
1いをめぐっていました。
ほんぼんでは
いつしようけんめいはしりました。
うでをしつかりふつて
はしりました。
けつかはらいでした。
くやしかつたけど
がんばれてよかつたです。

松川町に巨大カボチャ現る



▲大人の男性でも持ち上げるのは大変!?

早川さん(南方)のお宅で大きなカボチャがとれました。10月末まで中央公民館ロビーに展示されています。一体どれくらい重さがあるのでしょうか?

短歌

中平恵子 (郷原)

人々を家屋を飲みし災害時に
生まれたる児は無心に乳吸う
蔭をもつ桜花は散り日をおいて
葉桜ゆたかに大木を包む
朝光に華やぎていし朝顔は
夕べの風にうなだれ揺らぐ
施設にて「ひとりぼっち」という友の
手を握りつつ言葉をさがす
ゆく夏の豪雨は暑さを流すかに
人等畑に秋の種まく

声

「押し花教室」に参加して

H・M

9月3日(土)午後1時から中央公民館で「押し花教室」がありました。

はがき、ミニうちわにつづき今回は、色紙作りに挑戦しました。

テーマは、

「花瓶に生けられた花」

生田押し花の会の皆さんが丹精こめて作られた押し花を一人一人に配っていただき、会の皆さんの親切な御指導の

もと色紙作りが始まりました。

アジサイ・パンジー・チドリ

ソウなど、カラフルな花をはじめ、もみじの葉やシダ・ワイ

ヤーランツなど葉物を使い押し花をアレンジします。

押し花は、とてもデリケートなので、やさしく扱う事が大切です。

難しい所は、会の皆さんに助けてもらい参加者それぞれ個性的な作品ができました。

ま ち の 石 仏 ⑨ 「甲子様」(部奈)

甲子信仰の主神大黒天を神道的表現で「大國主命」と刻んでいる。



いろいろな花や葉を使った作品は、どれもすばらしい色紙になりました。和やかな雰囲気の中で、楽しい時間を過ごす事ができました。

みなさんも、押し花教室に参加してみませんか!!

「猫ある少年エルマー」で感動

—公民館映画会—

宮下和子

毎回楽しみにしている映画会。今回は9月25日午後6時より開かれました。

赤と白の横シマシャツに青い帽子のエルマーは冒険家にあこがれる少年。ある日旅する猫から聞いた恐竜の子どもの助けるため遠い動物島まで行くことに。大の猫好きの私にとつては猫と会話ができることに感激ですが、大人になつたらもう無理ですね。

ごく普通のどちらかといえど静かでおとなしくらしいのエルマーが囚われた子供の恐竜を助けるために多くの困難に立ち向かうのですが、猫から聞いた話をもとに、自分一人で考え一人で決断し実行していく姿には拍手したくなる



H.Mさんの作品

くらい感動しました。

エルマーが助けたい子どもの恐竜は嵐で飛ばされた家族とはぐれたボリス。黄と青のシマに金色の翼、赤い角のある美しいボリスには両親や兄弟のように力強くとぶことができないうコンプレックスがあります。そのボリスも命をかけて助けに来てくれたエルマーの励ましで力強く大空へ羽ばたきます。その時のエルマーの言葉。"H・M you win"、「望めば何でもできる」

この言葉は人生の折り返し点の過ぎた私でもまだ楽しいことが待っていると希望を持つことができるおまじないのようなものになりました。

2023年

つい先日甥っ子たちの幼稚園の運動会を見ました。

あまり大きな園ではないので、35人ほどの子ども達が元気にかけっこやダンスなどをする姿に、声援を送ったり、思わず笑ったりしてきました。

そんな楽しい運動会ですが、報道特集番組を見ていたら全国の一部の学校などでは、放射能の危険があるため体育館の中で行ったり、中止を余儀なくされているそうです。それを見たときに、普通に何気なくしていることも実は幸運なことだと思われました。

報道によると一部のイベントなどで、今回の原発事故近県のものを使っているからと匿名の抗議が来て使用を取りやめたり、イベント自体を自粛したと聞きます。個人的には、匿名で自分の言いたいことだけ言い散らかしているように感じてしまいました。放射能は目に見えずよくわからないから余計に怖さが募るのでしょうか?

大久保康司

公民館報
「まっかわ」
第 576 号
平成23年10月15日

発行者 松川町公民館 登部
責任者 矢澤 公民館編集部
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)